

論壇

学校職場以外の経験大切

「子供は勉強のしすぎ。大人は働きすぎ。だから歳をとるとすることがない」。これは20年以上前に、評論家の堺屋太一氏が言っていたことだ。非常に含蓄の深い言葉だと感じた。

子供が勉強のしすぎかどうかは別として、子供は学校の世界しか知らない。大人は職場の世界しか知らない。だから、引退すると、後には何も残っていない。こう言い換えると、この言葉の真意がよく分かる。要するに私たち日本人の多くは、人生の時間配分を間違えているのだ。

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

人生の時間配分を変えよう

子供の時から、より広く学校の外の世界を知ることが大切だ。ここでいう子供とは高校生や大学生も含まれている。学校の課題をこなすだけでなく、社会活動に参加することも重要だろう。大学生なら、企業の現場を経験するインターンなどもよい。外の世界を経験するため外国に留学するのもよい

だろう。いずれにしても、学校だけに通っている生活では人間の幅はできない。大人になって仕事漬けの生活では社会の変化に対応することはできない。学校を出たらもう勉強する必要がないと考えるのは間違っている。社会人になってからも新しい知識を身につけたり、仕事以外の社会活動に参加することが必要だ。

グラットンという学者による「ライフシフト」という本が話題になっている。人生が90年あるいは100年という時代に突入して、私たちは人生の中の時間配分を変える必要があるというのだ。どのように人生の過ごし方を変えていったらよいのか、限られたスペースで詳細な議論をすることは難しいが、大学の役割について少しコメントしたい。

的には特異なことだ。北欧では高校を出てから何年も社会人として生活してから20代の後半に大学に入學する人も多いという。米国では、大学を出て社会人になった後、ビジネススクールに入り直す人が少なくない。コンピューターなどの技術を学ぶために、社会人の途中で学校に行く人もいる。リカレント教育という、社会人の学び直しが盛んであるのだ。

高年齢者が闊歩する大学に
高年齢者が大学の授業に参加することの価値についての議論も欧米では盛んなようだ。大学教育という若者が将来のために知識を身につけるためというイメージが強いが、仕事の線から離れた高年齢者が大学での知的活動に参加することは、本人の肉体的および精神的な健康に好ましい影響をもたらすようだ。

大学に長年身を置いている者として強く感じるのは、大学というのは本当に魅力的な場所であるということだ。大学の図書館一つ例に取っても、そこに座っていると知的な世界に浸ってよい気分になる。大学の中で行われている少人数のセミナーには、社会人や高年齢者が参加したら、もっと面白い議論が展開できるはずだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。